

令和7年度 第1回市川町総合戦略会議録

会議名	第1回市川町総合戦略会議
開催日時	令和7年8月28日(木) 10 時 00 分～12 時 05 分
開催場所	市川町役場 4 階相談室
出席者	委員：小野康裕、藤田正広、井野健三郎、村上和男、喜田美咲、 吉田花梨、岩木和子、山下彰彦、村田敏朗、中野大輝、 石川伸也、長尾克洋 町：津田町長、尾花副町長、近藤地域振興課長、木村企画政策課長、堀次係長
会議の議題	1. 開会 2. あいさつ 3. 出席者紹介 4. 協議 (1)令和 6 年度実施事業実績について (2)令和 7 年度実施事業及び次期総合戦略事業について (3)その他 5. 閉会
会議資料	【事前配布】 ・次第 ・第 2 期市川町総合戦略進捗管理(R2-R7) ・次期総合戦略新規事業提案 【当日配布】 ・次期総合戦略新規事業提案(8/28) ・座席表 ・町制施行 70 周年の記念グッズ ・リフパーまつりチラシ ・土地上のチラシ
1. 開会 企画政策課長	皆さんおはようございます。 定刻になりましたので、ただいまから「令和 7 年度第 1 回市川町総合戦略会議」を開催したいと思います。 本日は委員の皆様におかれましては何かとご多忙の中ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。 それでは開会に先立ちまして、津田町長から挨拶をお願いします。
2. あいさつ 町長	皆さんこんにちは。 本当に今年の夏は暑い日が続いております。 今週も 35 度以上の日が非常に多くて、熱中症で運ばれるということもお聞きしています。 皆さんにおかれましては、十分お体にはご自愛いただきたいと思います。 さて、本日の第 1 回市川町総合戦略会議の開催につきまして、皆さんにいろんな意見を出していただいて、その中から市川町の今後の戦略を定めていきたいと

令和7年度 第1回市川町総合戦略会議録

	の思いですので、忌憚のない意見をどんどん出していただいて、参考にさせていただきたい。 今市川町としましては、人口減がどんどん進んでいますし、新たな企業誘致も進めています。それにつきましても、一つの事業をするにもいろんなことで想定以上の時間がかかります。その中でも今回は令和 8 年から 13 年までの 5 年間の計画ですので、本当に身近なものから、一つひとつできるだけ実行できるように考えていきたいと思いますので、本日はよろしく願います。ご苦労さまです。
企画政策課長	はい、ありがとうございました。 これからは着座にて説明させていただきます。 本日の委員さんの欠席ですけども、市川瀬加郵便局の小西委員から欠席の連絡をいただいております。 連合兵庫西部地域協議会の浜田さんからは連絡はいただけていないのですが、ちょっと今確認中です。 それから委員さんの任期につきましては、6 年度 7 年度の 2 年間行っていますが、途中で変わられた方がおられます。 前任の方の継続期間ということで、この度から新しく委員様になられた方をご紹介します。 まず一般社団法人市川地域活性企画の中野大輝様です。
3. 出席者紹介	市川地域活性企画の中野大輝と申します。 よろしく願います。
企画政策課長	この 7 月から市川町の観光協会が解散いたしました。その後として受け皿としてこの地域活性企画が観光協会の代わりを担っていますので、本日は委員として出席をいただいています。 それから中播磨県民センター長の井野健三郎様でございます。
委員	中播磨センター長の井野でございます。どうぞよろしく願いたします。
企画政策課長	よろしく願いたします。 本日、令和 6 年度と 7 年度の 2 年間総合計画と総合戦略の改定業務を委託しています株式会社ぎょうせいさんから、竹本さんと宮城さんに出席をいただいています。 事務局は、企画政策課でこの総合戦略会議の事務局を担っています。 司会は、この 4 月から企画政策課の課長をさせていただいています木村と申します。よろしく願いたします。 それから担当の青木課長補佐ですが、本日は欠席させていただいています。それから新しくこの 4 月から企画政策課に配属になりました堀次係長です。 このメンバーでさせていただきますのでどうぞよろしく願いたします。 それでは協議事項に入る前に資料の確認をさせていただきたいと思います。
企画政策課長	まず事前配付資料の確認ですけども、第 1 回総合戦略会議の次第、それから委員さんの名簿、第 2 期市川町総合戦略の進捗管理、次期総合戦略の新規の提案事業というものを事前に配布させていただいておりました。

令和7年度 第1回市川町総合戦略会議録

	それから本日配布分です。まず座席表、土地情報のチラシ、リフパーまつりのチラシ、袋に入っています町制施行 70 周年の記念グッズ、新規の提案事業の資料の修正したもの、次期総合戦略新規提案事業 8 月 28 日を机の上に置いています。 本日はこの新しい資料を持って、新規の提案事業を説明させていただきますので、よろしくお願いいたします。 それでは早速ですが、会議次第 4 の協議事項に入りたいと思います。 ここからの進行につきましては小野委員長にお願いしたいと思いますのでよろしくお願いいたします。
4. 協議 委員長	はい、それでは座ったままで失礼します。 私は戦略会議の委員長を 9 年ほどさせていただいていますが、人口減少をどうやって食い止めるかなど進めていきたいと思っています。なかなか思うように10年間の結果が出ていないのが現状で、総合戦略がどういうことをしていくのかを含めて進めていければと思いますので、よろしくお願いいたします。それでは、協議に入らせていただいて、令和6年度の実績報告から事務局から説明をお願いします。
企画政策課長	令和 6 年度の実績報告等について説明
委員長	実績の報告について質問やご意見はありますか。
委員	鶴居中学校の跡地利用について、それは売却だけということでしょうか。市川町には空き店舗が少ないというイメージがありますので、空いた教室を一つの部屋、例えば店舗として、ちょっとしたモールみたいな感じで体験授業の施設とかで使用する、そういったアイディアは考えられていないでしょうか。
企画政策課長	鶴居中学校の跡地利用ですが、町の方針として基本的には売却ということが基本方針で決まっています。できれば校舎とかも潰していただいて、何か製造業のような企業が来ていただくのが市川町としては一番理想的な形ですが、どうしても資金がかかりますので絶対売却ってということではなく、校舎も使いながら継続的に利用できる計画をプロポーザル等で提案していただければ、それは考えさせていただきます。 今のところ1社応募がありましたが、提案説明を聞いたうえで、その企業に売却するのは難しいと判断し、今回はお断りしました。 教室など再利用の形で提案いただければ、その都度協議をしたいと思いますが、町の基本方針としては、売却ということで決まっています。
委員	中学校の跡地を利用するにしても、工事車両など大きなトラックが通れる道が必要だが、そういう点で町としてはどういう考えでられるか。
企画政策課長	跡地を利用するにしても校舎を潰すにしても、やはり大きな道路が必要になっていきます。それにつきましては、昨年度から、瀬尾高圧に行く道路から鶴居中学校の西側に続く道路を、建設課で国の補助金を利用してつけているところです。来年度に完成予定で工事を進めています。
委員	事業番号19番の若い世代遠距離通勤の補助について、定住の促進につながったかどうかということで、利用者に対してアンケートとかをとり、引っ越さないとか

令和7年度 第1回市川町総合戦略会議録

	の影響はあったのか。
企画政策課長	こちらについて、アンケート等で確認をすればよかったのですが、アンケートは取っておりません。 こちらについて、今のところ事業継続としてはバツにしています。通勤者だけでなく、大学生や、高校生にも補助範囲を広げたらどうかという要望は聞いていますが、新しく新規事業をしようとする、何かをやめないといけないので、こちらの事業はやめる方向にしています。 定住に成果があったかどうかは、確認できておりません。
委員長	事業番号9番のところの理由のところに、「有機農業に対する機運が高まっている」とありますが、事業番号 13 番ではオーガニックタウンの補助金は終わるとあります。オーガニックタウンの事業自体に 50 万円の補助をずっと出していった、利益がこれだけあるということはわかるんですか。
課長	今、手持ちの資料がないので数字的な黒字かどうかどうかは、わからないのですが、補助金が入って黒字にはなっています。50万円の補助金があれば赤字になるかどうかは、今は覚えておりません。
委員長	補助金がなくなり赤字になることで地域おこしの笠形オーガニックがなくなってしまった、となると、機運が高まっているというのは、相反したことになるのでは、と気になり、そこをどうカバーしていくのかなと感じました。 市川町はオーガニックタウンを売り出しているにも関わらず、赤字で片方はやめてしまっていて終わりというふうになると本末転倒にならざるをえないのかなと。赤字続きのまま補助金ずっと出していくということも問題でしょうし、その辺考える必要がある。
副委員長	事業番号 48 番の生活環境の改善というところで、空き家除却支援事業として、さっきも補助金額の上限が 33 万円 3,000 円の説明がありましたが、これは危険空き家にならないと事業を受けられないということか。
企画政策課長	はい、そうです。
副委員長	補助金がたとえ 30 万でも 50 万でも出るなら、危険空き家に指定されるまで待とうかという人が出てくると思う。それが心配。 みんなにも迷惑がかかるからと、危険になるまでに壊す人にも適用されたら、この危険空き家というのは減るんじゃないかなと思うが。
企画政策課長	危険空き家の定義ですが、構造的に今にも崩れそうな空き家は当然ですが、主要道路の横や通学路の傍に建っているところが、ここでいう老朽危険空き家の定義になりますので、そういったところに優先的に補助金を投入して、解体していただくことがこの事業の狙いです。
副委員長	狙いはわかるが、なかなか片付けてもらえないのが現実じゃないですか。危険な状態のまま 5 年 10 年もしたら指定されるから放っておこうとする。それを何とかして、例えば危険になってないけど、半額補助を出しますよとかであれば、解体作業が進むのではと考えるのですが。
企画政策課長	この事業も継続事業として続けたいと思っています。条件や金額など見直しをす

令和7年度 第1回市川町総合戦略会議録

	ることにしていますので、先ほど副委員長が言われたような形も取り組めるのであれば、考えていきたいと思います。
委員長	それでも予算的にも限られたことでしょ。
企画政策課長	危険空き家がどの程度あるのかわからないのですが、去年の実績が1件なので、そんなに多くはないのかなとは思いますが。
副委員長	町内に、皆さんが迷惑をされている空き家がある。 地主と持ち家が違う場合とかの申請などは、どうしたら良いか。
企画政策課長	その空き家は、住民環境課から所有者には言っていると思う。どんな契約になっているかわからないのですが、どちらが壊すにしても、いくら補助があるとはいえ、自己負担がかなり大きいと思うので、進んでないのではと思います。
課長	費用の問題です。補助金の33万円だけ壊すということはできない。解体費用を使われて初めて補助ということになるので、この分だけ使うというのは無理やし、あと残り誰が払うのっていうのが問題になる。
委員長	他、特になければ、令和7年度の実施事業及び次期総合戦略事業について事務局より説明をお願いします。
企画政策課長	令和7年度の実施事業及び次期総合戦略事業について説明
委員長	では、令和7年度の実施事業についてご意見ございますか。
委員	事業継続はするが、総合戦略には掲載しない事業について、KPI管理は各課でしていくということか。
企画政策課長	KPIについては各課である程度目標持って継続事業として取り組んでいただくような形になると思います。
副委員長	事業番号28番の仕事と家庭生活の両立支援ということで、学童保育の充実で、6年度も7年度も児童数に合わせた職員数の確保という表現が両方入っていてほぼ一緒だが、学校で支援が必要な(支援学級に通う)子どももいるので、児童数に合わせたという表記ではなく、児童に応じた保育を進めるために、というような表記に変えていただきたい。
企画政策課長	わかりました。 こども教育課の方に確認をさせていただいて、先ほどご指摘があったところは、訂正の方はさせていただきます。
委員長	全体的なところですが、総合戦略会議は要するに、人口減をどう防いでいくかというテーマのはずですけども、あんまり関係ないことがいっぱい書いてある。今の副委員長の指摘もそうですけども、このことでどうやって人口減を防いでいけるのか、という記載はされているけども、ちょっと問題意識が薄いのかなと思う。 総合戦略ですから、どう人口減少を食い止めていくのかという、戦略を書いてほしい。こうしますという説明に終わっているのが大半かなと思う。 来年度からその辺のところを、しっかりと各課の中で検討いただきたい。 かなり定住促進の部分が大きいと思うのですが、中野さん初めてですけど何かありますか。

令和7年度 第1回市川町総合戦略会議録

委員	まず、定住の前に移住というものがあります。新規事業のところで移住の新規補助というのが5番の方に出てきているので、町として移住に力を入れようとしているのだと思いますが、移住希望者の6割7割は、まずは賃貸で借りたいという希望者なので、空き家を売りたい層と買いたい層のミスマッチが起きているのが現状。 神河町は新築のところでも補助金額は高いですが、若者が移住しやすいというところは、やはり賃貸が強みとしてあるというのが私の分析ですので、やはり賃貸物件をどう増やしていけるのか。 空き家の対策としては、売りたいと思う方々に対して、賃貸として貸してもいいよという施策があるといいのかなと感じています。借りる側、買う側へのサポートはあるけれど、貸す側にも、中身を改装して貸してもいいよとかのサポートがあれば。5年10年したら、子どもが帰ってくるかもしれないから、そこまでは残しておきたいという方々に対しても、それだったらその間だけでも貸してくれへんやろかっていう働きかけができれば、貸しやすくなるのではないかと。 また、5年、10年借りたらそのまま渡しますよっていうような制度であるとか、ちょっと突飛な感じというか、借りやすい、貸しやすいという戦略があれば…というのは、移住相談窓口にいる肌感覚としては、あると思う。 移住定住を担う地域おこし協力隊としての意見はそういう感じです。
企画政策課長	適切なアドバイスありがとうございます。 貸す側への補助については、事業番号15番の空き家の古民家利用施策の推進の中で、ある程度の補助はありますが、県の補助事業については、どこの市町からも申請が多くて、すぐに県の補助枠がなくなってしまう状況と聞いています。町の補助金についても、3分の1補助で上限が50万円ですので、条件の見直しや金額の拡充など、また貸主が空き家を借りていただけるように改修しやすいような補助もこれと絡めて、施策を考えていきたいなと思います。
委員	これはおそらく、空き家の老朽のことを指摘されたことに繋がってくる。補助金33.3万円、10年20年を待つよりも、早めに貸したり、手放したりした方がメリットがある、という心理的にプラスになるようなPRをしていきたいと思うので、その材料がわかりやすく明確にあると助かる。
委員長	私から質問ですけど、その辺のアイデアっていうのは中野さんから出ているんですか。
委員	その部分に関してはこれまでも、企画政策課と協議をさせていただいていて、その戦略がこの中に入っているか入っていないかは会議に出席して知るところではある。不動産会社も含め対応している。現場レベルではそんな感じです。
委員長	個人的な話です。 姫路や神戸の不動産の知り合いから、市川町内の実家が空き家になっているから民泊やりたいけど補助金あるやろかみたいな問い合わせが3件くらいある。かなり古い大きな自宅だけど、民泊を対象にするとこは限られている。情報を集約する場所もないので、そういうアンテナをもっと上げていただきたい。

令和7年度 第1回市川町総合戦略会議録

委員	4 月から区長をしていて、70 所帯の集落なので集落内のことしかわからないんですけど、田んぼはちょっと置いといて、土地を売りたいけど誰か買ってもらえないだろうかという相談が 1 件あった。ちょっと借りたいけど知ってないとか、半分不動産みたいな問い合わせがあって、地域内のことはわかるが、値段の話はできません。地区を離れると、どこが窓口でどんな仕組みなのかわからない。役場に聞きに行っても、到達点は分かるけども個人的プレーになっていて、そこへ行きつくプロセスがもうひとつ理解できていない。そこを充実させてほしいというか 1 本道を作ってほしい。仕組みがどうもできてないような気がしてしょうがないんですけど。
企画政策課長	町としては、いちかわテラスに空き家空き土地情報など窓口は一本化にさせてもらっています。いろんな補助金も含めて、いちかわテラスの窓口に行っていたら、市川町内のそういった情報は教えていただけますし、相談にも乗ってもらえます。実際に現地の方が案内もしていただけます。ただその空き家が、空き家バンクに登録されているかどうかというところがありますので、空き家をぜひ売りたいとか貸したいという方がおられましたら、空き家バンクの方に登録をしてください、というお願いをしています。いちかわテラスが窓口になっていますので、そちらを紹介していただければ丁寧に案内していただけたと思います。
委員	宅建業も持っておられる？
委員	それは持っていないので、あくまで空き家バンクに登録されている物件を紹介している。登録申請があれば、家の中の写真を綺麗に撮ったり、動画を撮ったりして、各区の特徴などの情報を提供したい。 売買や実際の契約に関しては、不動産屋さんにお繋ぎして、あとは二者間でやっていただく橋渡しをする形になる。 現在試用期間中で引継ぎをしている最中ですので、できるだけ早くできるよう頑張ります。
委員長	ずっと総合戦略の委員長をさせていただいて、毎年言っているんですけども、市川町がどんなまちを目指していくのか分からない。神河であれば、観光をメインで地方促進をしている。福崎は自然と人が集まっている。市川町は何のために移住してくるのか、移住してもらいたいのか、どんな人に来て欲しいのかみたいなことが全然明確になっていない。 市川町はこんな人に来てほしい、こんな町を目指している、5年後こんな町になろうと思っている、10 年後こんな町になろうと思ってということしっかりと提示ができて、それをみんなが知っておれば、それに見合った人たちがこっちを探している、提示をしているような繋がりになってくるのかなと、いつも思う。 それがないのは市川町かなと思う。 総合戦略をやっている、なかなか前に進まないのは、それが原因かなという気が大きくある。市川町の特徴そのものを出していかないと、予算の大きいところに負けるだろうというのはわかりきっていて、どれかの事業を削って、どれかの事業にお金を動かすだけのことをずっとやっていくしかない町だと思いますから、よそ

	ができない市川の特徴は何やろと、しっかり考えていかないといけない。 個人的に思うのは、市川町の特徴を出せて、しかも若い世代がこれから住もうと思う魅力のうち一番簡単でわかりやすいのは、水道水だと思います。姫路市の水道水と市川町の水道水と飲み比べたら明らかにわかる。市川町の水道水は、配管のメンテナンスの問題を含んでいますが、他所の町よりも遥かに衛生的で美味しいということです。これは、若者世代の定住移住に直接つながる大きな魅力になる。しかも、今年みたいな渇水があってもほとんど市川町は影響がなかった。こういうことをもっと売り出していく必要があって、前面に出して移住促進を進めていくことが大事かなと思うんです。ぜひその辺を考えてほしい。
委員	その意見の関連で、キーワードが欲しいなっていうのは思っている。神河町は2050年までの将来ビジョンがあるみたいで、その中にある町長挨拶でもいろんなテーマがはっきりと書かれている。例えばハートがあふれる住民自治のまち大好き私達のまち神河、安全安心のまちづくり、交流から関係そして定住、子育て環境の充実等、いろいろ書いているが、市川町の良さを考えたときに、皆さんいろんな自分の方向で動かれているイメージがある。一つにくる町のイメージというかアイデンティティとして、何をテーマにしたらいいのかって考えたときに、何かに特化されている技術者っていう感じの人が多いのかなと思う。アイアンや農家、卵についてもすごい技術を持たれている。そういう技術を持った人が集まっている町のイメージがあるのと、農作物が盛んなのであれば食材にしても良いんじゃないですか。そういうテーマを掲げて、来る人に対して何を与えられるかっていうことをまず考えた方がいい。 それは、ビジネスと同じだと思う。人のためになることを提供する町であつたら人は自然に来ると思う。でもその考え方ができてない。例えば何か問題があつてそれに対して、リアクションをするような、後から反応していく場合には、多分間に合わないの、夢を先に出して、それに向かつて人が来るっていう考え方を生じたい。全体として考え方を変えていかないといけない。私は、移住してきてそこがドヨンとしているのかなっていうのは正直あつて、すごく良い人はたくさんいるし、変えたいっていう思いがある人もたくさんいらっしゃるけども、方向が定まっていなくて進歩が少ない。 それと、グーグルで市川町と検索すると、福崎町の絵が出てくるんです。リフレッシュパークと、福崎町の妖怪の絵が出てきているから、イメージが多分定まってない。アイアンと卵とか、ガンといろいろ出すべきなのかなっていうのは思います。
委員長	それは他の人も言っていた。Google 検索したら違うわけですよ。 時代がそれだけ変わってきている。AIが入っている現状。
委員	掲載事業内容数が前回から半分ぐらい減るということをどう見るかなんですけど、今残すといっている項目の中で、例えば事業番号47番とか事業番号48番、生活環境の改善生活排水処理事業の推進について、兵庫県は99%大作戦というのを20年以上前から取り組んでいて、市川町さんはまだ95%なので、令和10年度の事業完了を目指して継続します、ということですけども、人口を増や

令和7年度 第1回市川町総合戦略会議録

	していくために目指すべき項目として、これが必要なのかなってという、違和感があります。 空き家の除去もそうなんです。空き家の除去は非常に大事な課題であることは認識しますが、除去をすることが市川町さんにとって人口を増やす一つの戦略戦術なのかなと。別に落とさないといけないっていうつもりはないんですが、市川町さんが目指すべきという後半の議論の中で、この項目がそうなのかなという気がちよっとします。 除去をした上でそれをどうするのか。人口を増やすために、それをどのように活用するのか、仕組みを作るのかってというのがあれば、それはそれで意味があるのかなという気がします、半分に項目を絞ったという一方でこれを残すっていうのも、いかがなものかなという気がいたしました。
企画政策課長	次期総合戦略または総合計画の項目としては、移住定住、それから子育て応援、空き家対策とか、企業誘致、福祉医療、この五つが大項目になっていますので、それに沿ったような形での総合戦略っていうのを考えているんですけども、先ほど井野委員さんが言われたように下水のところについては、次の総合戦略に載せるか載せないかというのは、推進チーム会議の中でも議論はありましたが、生活環境の一番の基本なところなのと、インフラ整備のところ、事務局側としても定まっていないところが正直ありますので、こちらについても、先ほどのご意見を参考に決めていきたいと思います。
委員長	全体的に私も言いましたけど、戦略になってないものがある。説明も含めてかなりありますので、特に戦略としてやっていくのであれば、同じことを繰り返しますけども、市川町としての目標を定め、特異性をどう生かしていくのか。 子育てに関しては、本当に子どもが少ないので、極端なことを言ってしまうと、市川町教育委員会をなくして福崎町に委託した方が良いのではということも考えられる。もっともっと戦略的なことを各課の中で検討いただきたいと思います。教育に関しても本当に人数少ない、20数名しか子どもが生まれないのであれば、もっと市川町らしい特異性のある教育カリキュラムもやれないことはないでしょう。ただ公共の施設でするので限られた範囲ではあると思うんですけど、もっと特徴のあるものに対して子ども達は寄ってくるだろうし、親も一緒についてくる。特徴的な教育プログラムというものを提供できる義務教育があれば、移住定住に繋がりがやすい気がします。 まだまだ質問あると思いますが、事務局より新規事業の提案をお願いします。
企画政策課長	新規事業の提案
委員長	はい、ありがとうございます。 次期総合戦略についての提案の説明をしていただきました。令和7年度の実施の分も含めてご意見を伺いたい。どなたかいらっしゃいますか。
委員	この新規予定の子育て支援について、オムツの支給は現物支給でぜひ実施して

令和7年度 第1回市川町総合戦略会議録

	いただきたい。今年のような猛暑の中では外に出られない、公園にも遊びに連れていけない、そういったときに、市川町にはこんな素敵なおところ、子育て支援センターがあって、そこは涼しいところで遊ばせることができ多くの仲間と子育てについてお話もできるおところ。他にも市川図書館に行けば絵本の読み聞かせをしてくれたり、図書館司書がその子にあった本を教えてくれたりしてくれるので、図書館で過ごしてみたらどうかと、アドバイスをしている。そういった情報は広報には確かに載ってはいるけど、アピールする方法として、もっと良い方法を取り入れていった方が良くはないかと感じます。 進捗管理の 26 番に、令和9年度にこども園の統合、給食センターや小学校の統合がありますが、各地域においての説明会などは計画されていますか。
町長	区ごとに 4 ヶ所で、こども園や小学校の統合、水道のことを含めて、説明会、意見交換会をさせていただきます。 9 月の終わりぐらいから保護者向けのお話を順次小学校関係で説明を進めていく予定にしています。
委員	令和元年に東こども園ができるときに、10 年間ということは記憶していますが、やはり子どもの移動となると、距離的に 1 ヶ所になると皆さん大変さも出てくると思う。でも町内には屋形もありますので、通園するのにそちらを選ばれば、町内で 2 ヶ所あるというのは、子どもの人数からしたら十分ではないかなと思います。
委員長	ちょっと自慢できる口コミがやっぱり大きいと思いますよね。お母さん方が町外に行かれたとき、市川町こんなやで、って自慢できる内容が一つでもあれば、移住定住に繋がると思うんですけども、それがどうも見当たらないところが問題なのかなという気がします。そこをちょっと進むというか、何かアピールの仕方があるのかなという気がします。
委員	前の戦略会議でもお話させてもらったと思うけれども、市川町の支援センターは上の子とベビーを連れて行っても、上の子は支援センターの先生が見とくから、おっぱいあげておいでって別室の授乳室がある。遊具も含めて設備的にきちっとされている、このようなところは姫路市を含めて自慢できることだと思うんです。神河の方が何人かグループで来られて、「神河にこんなとこない、行ってよかった。」ということ言われていましたので、それこそアピールできる部分でないかなと思います。
委員長	そういう口コミも大事にしてほしいなと思います。他にご意見ありますか。
委員	3 ない窓口について、これは自治体の申請のプラットフォーム化のことでしょうか。それとも市川町独自のことでしょうか。
企画政策課長	3 ない窓口の事業については、この標準化が終わってからするということで、10 年度以降でぜひともやりたいということです。
委員	確か総務省が音頭を取って、転入転出も含め全ての基礎自治体が共通のプラットフォームで手続きができるというものだと思うんですが、先ほどの議論にもあったように、市川町さんがプラスアルファで独自性みたいなもの、ここが市川町さんの特徴なんですっていうところを考えるとそれを打ち出すことに非常に意味がある

令和7年度 第1回市川町総合戦略会議録

	と思うので、そういう検討もよろしくお願いします。共通のプラットフォームの事なのかプラスアルファなのわからない。
委員長	やっぱりそうですね。 合わせて言うと、窓口行かなくて済むというのは良いんですけども、移住定住から考えると窓口をもうちょっと明るくする必要があるのかな。メインは市川町の窓口だけれども、言葉遣いの問題も含め、照明のことなども、見た目というのも非常に大事。移住しようかなと思って役場行って、んー、この町は…っていうイメージになりかねない。お金のかからない共益の問題になってくると思うんですけども。他に？
副委員長	新規事業の 3 番の移住定住促進ということで、出会いの創出事業というのがありますが、晩婚化未婚化の進行に対する男女の新たな出会いの創出事業を県がするのはわかるけど、それに対して補助金を出すということは、登録をして他町へ出てしまうことにならないか。これって、移住定住に繋がるか？他町へ出てしまうことに助成金を出すのか？
企画政策課長	町内に住所のある男女が対象の事業ですが、男性の場合はサポートセンターに登録してもらい、県の婚活の事業に参加していただき良い方があればその方を市川町に連れて帰ってきてもらう。女性の方は県の事業なので、他町へ出ていくということは考えられますけども。
副委員長	逆に男性が女性を見つけて、出てくることもある。
企画政策課長	それもあるかもしれないですけど
副委員長	これは疑問に思う。 タクシーの高齢者の利用券の助成事業で、助成額が1人1万円とあるんですが、どの程度の利用がありますか。
企画政策課長	人数で言いますと119人です。
副委員長	6年度で119人、申請者は少なかったということやね。 ということは、なんで申請されなかったかという背景を考えないといけない。 それと、オムツの話が出たけども、それはすごく良いことで、乳児だけでなく、高齢者も対象にして、例えば、要介護認定を受けている住民税非課税の二人暮らしやったら外に出られない人がいるから、タクシー利用券かオムツ券か選択制にしたら喜んでもらえるのではないかな。
企画政策課長	高齢者向けのオムツ宅配便についてはまたちょっと検討はさせていただきます。
副委員長	入れなくてもいいんですよ。
企画政策課長	はい。あとタクシー利用券の利用率が低いということですが、健康福祉課に確認をしますと、一番は周知不足というのがあったようです。 知らなかった、1万円が少ないという意見の他に人の目が気になるのでタクシー利用を遠慮される方が多いようです。 その他に、タクシーを呼んでもすぐに来ていただけないという問題があったようで利用者が少ないということは聞いています。
委員長	タクシーが足りてない問題はある。高齢者の優待乗車助成で姫路市さんは65歳

令和7年度 第1回市川町総合戦略会議録

	から 75 歳に切り替えられました。要検討はいっぱいあると思います。
委員	6 番の移住定住促進の若者世帯生活応援事業で、賃貸で入られる方へ補助されるということなんですが、これは進捗管理の 18 番ともリンクしていると思うんです。新婚さんがすぐに家を建てるということは少ないと思うんです。2 年という年数も気になりますが、賃貸で生活されて、その間に新しく家を建てるのか、空き家を改修して住むという方もいらっしゃるかもしれませんが、そういったライフプランに対して、応援事業の申請窓口や相談窓口をいちかわテラスで設けたら市川にずっと住んでもらえる可能性が高いと思います。 補助だけの手続きをされて、はいどうぞということでしたら今後のことがわからないので、せっかくこの何年間か賃貸でも市川町に住んでいただいて、他町に行かれたらこの何年間か無駄になっちゃうんでね。 やっぱり最終的にそこに永住してもらおうと思ったら家をきちっと構えていただくというようなことが大事になると思います。そこら辺も含めてトータル 1 本でそういうお話ができれば良いと思いますので、よろしくお願いします。以上です。
委員	2 点あるんですけど、1 点はお願いで、この度いちかわテラスができ、新しい仕組みを作られたということで非常に期待していますが、イベントや定住にしても宣伝が行き届いていないので、SNS でも何でも PR していただきたい。 もう 1 点は農業支援の関係で、国県の制度全部繋いでいただいたり、町の補助事業も営農組合で利用させていただいたりしているんですけど、行き詰っている部分もあるので、充実させていただきたいという要望です。
課長	僕は地域振興課というので参加しています。役場側で僕が言うことじゃないと思うんですけど、この新規提案でこれを見られて市川町に移住してこようか、定住しようかって思われますか？もっとターゲットを絞らなあかんと思うんです。 市川町がこれまでずっとやってきたことは、歳出、お金を出すことをして補助金を作って、結局何もできていない状態です。そうじゃなくて、20 年前にあるセンター長へ提案しに行ったことあったけど、今の歳入を守るんじゃなくて、そこを一部削ってでも餌にするとか、ターゲットをもうちょっと絞らないといけない、皆さんが言われる通りだと思います。 この微々たる補助金を設けて、これがあるんやったら市川町に行こうって誰も思わないと思います。歳出をどんどん増やして自分らの首を絞めるなら、もっと知恵を出せ、案を出せっていう話で。 高額納税者を呼んでくることを考えないと、合併してもらえなかった市川町がこれから生き残るには、もっともっと発想を変えなあかんと思う。ひとつターゲットとして、リモートワークが定着して、リモートで仕事ができる人が大企業にはいっぱいいるんですよ。僕がずっと言っている、市川町は災害のない町、土地が安い、水も豊富、空気が綺麗、田舎すぎひん、でも街じゃない。津波は絶対来ないやろうし火山もない、原発もない、そういったことをもっと発信して、そういうターゲットを絞った上で、移住定住に引き込む、そういったことを考えないといけないかなと思います。

令和7年度 第1回市川町総合戦略会議録

委員長	町長、最後総括的なことになりますけど
町長	先ほどから市川町として特徴あるまちづくりをしなければならない、と本当に私も思っています。その中で、今回の戦略につきましては、今までの戦略で進めてきたことを土台にしながら、また次のことを考えるということになっているんですけども、本当に今日、委員の皆さんから市川町として特色あるという言葉がたくさん聞きましたので、こういったことも再検討の中に加えさせていただいて進めていきたいと思いますので、委員の皆様今後ともよろしくお願いしたいと思います。
委員長	はい、ありがとうございます。 時間超過しましたが、これで終わらせていただきます。どうもありがとうございます。事務局へ返します。
企画政策課長	小野委員長、どうもありがとうございました。 それでは最後閉会にあたりまして、藤田副委員長から閉会の挨拶をお願いいたします。
副委員長	はい。もう総括はそちらの方でやっていただきましたので、私の方はもう何も言うことはないんですけど、今日話し合いされたことは、全て市川町の将来に繋がること、明日に繋がることばかりやったと思います。新しい事業もありますけれども、これから皆さんとまた検討しながら進めていけたらと思っています。 この会議は皆さんの様々な意見を求めていることで、いっぱい意見が出たと思いますので、今後ともそれを活かさせていただくということで、今日の会議を終わりたいと思います。 本当に長い時間ありがとうございました。これからも皆さん方のご健勝を祈念しています。どうもありがとうございました。
企画政策課長	次回の総合戦略会議ですけども、10月頃に考えていますので、また日程調整をさせていただきますのでよろしくお願いいたします。 次回については、本日の総合戦略会議での意見を踏まえた上で、本日提案させていただいた事業を進めていきたいと考えています。 また次の総合戦略会議でまとめたものを提案させていただきますのでよろしくお願いいたします。それでは本日長時間にわたりましてどうもありがとうございました。